

□議員名：藤岡修美

1 スポーツによるまちづくりについて

論点	生涯スポーツの推進について、スポーツを気軽に親しむことができるようにするとしてあるが、どのように取り組んでいくのか。
回答	自主的に参加できるスポーツイベントの開催や、地域におけるスポーツ推進の中核となるスポーツ推進委員との連携、また、地域でスポーツ活動を行う団体に対する活動の充実及び連携、様々な関係団体や関係機関と連携して取り組むことを想定している。

論点	競技スポーツの推進について、優れた選手・指導者を活用し、競技力の向上に努めるほか、競技人口の増加を図るとしてあるが、どのように取り組んでいくのか。
回答	市スポーツ協会に加盟するスポーツ団体やスポーツ少年団などの活動を支援・連携し、競技スポーツ推進事業を実施する。また、指導者が各スポーツでの優れた指導者から講習などを受けることにより、市内の競技スポーツ力の向上へとつながるように支援に努める。

論点	スポーツ活動を通じ、子ども達が、生涯にわたりたくましく生きるための健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎を築くことができるよう努めるとしてあるが、どのように取り組んでいくのか。
回答	子供の体力向上、豊かな人間性の涵養を図るためのスポーツを行う機会の充実、また、学校教育を通じての運動習慣の定着、部活動の地域展開の推進、それからスポーツを支える「人財」との連携強化に取り組む。

論点	学習指導要領解説の改訂において、学校と地域クラブとの間で活動方針等の共通理解を図るとしてあるが、本市はどうか。
回答	地域が主となって行う地域クラブ活動には、様々な課題があることが予想されるが、それを地域だけの問題とするのではなく、学校を含めた地域が子供たちを一緒に育てるという観点から、緊密に協議をする必要がある。

論点	部活動が地域展開することで、休日に開催されている大会はどうなるのか。
回答	大会運営は地域クラブ活動団体の関係者が担っていくと考えているが、地域クラブ数が少なく、大会運営に支障が生じる可能性もあるため、従来の大会運営のやり方を踏まえて、緊密な連携を取りながら、中学生の活動に支障が出ないような方向に進めていきたい。

論点	生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境の整備を図るとしてあるが、どのように取り組んでいくのか。
回答	公共スポーツ施設の利用促進を図るため、トップアスリートによるスポーツ教室の開催など魅力ある多彩なイベントを開催するほか、老朽化が進む体育施設の年次的、計画的な補修や、熱中症対策として市民体育館へ空調設備を設置する。

論点	公共施設のオンライン予約システムの導入によってスポーツ施設の予約はどのようになるのか。
回答	公共施設オンライン予約システムについては、体育施設のほか、文化施設や地域交流センター、小中学校の体育館などでの導入を考えており、インターネットやスマホから24時間いつでも施設の空き状況を確認し、予約申請手続きをすることが可能になる。

## 2 文化芸術によるまちづくりについて

論点	身近な場所で誰でも参加しやすい文化芸術の鑑賞・体験機会が生まれるようにアウトリーチ事業を実施するとしてあるが、取組状況はどうか。
回答	今年度はオペラ歌手による歌とピアノ演奏で楽しむコンサートを高千帆中学校、竜王中学校、花の海で実施した。また、園児に向けた市内の幼稚園、保育園を巡回する音楽のミニコンサートを実施したが、来年度はアウトリーチ事業を実施しない。

論点	公共文化ホール等での本物の文化芸術を体験・鑑賞する機会を提供するとしてあるが、取組状況はどうか。
回答	今年度は山響サマーコンサート、山口県警察音楽隊ふれあいコンサート、少年少女合唱祭、「アートの“たまたまばこ”」を開催した。また、文化協会との連携事業として、西川悟平トーク&ピアノコンサートの開催したほか、市民文化祭、児童生徒書道展を開催した。

論点	文化芸術の担い手と受け手、文化芸術と他分野などをつなぐために、コーディネーターの養成・確保や、活用を検討するとあるが、取組状況はどうか。
回答	現時点では、文化芸術団体の情報が乏しく、市の文化芸術全体をコーディネートする人材の育成が難しいため、まずは市内で活動する文化芸術団体の情報を収集して、データベースを作るという作業を進めている。

論点	市内の文化芸術の推進組織の具体的な検討を進めるとしてあるが、取組状況はどうか。
回答	既存の団体の財団化、また、他の財団への参画などを検討しているが、本市における推進体制の構築には、まだ解決すべき課題が多いと認識している。

論点	令和8年度の施政方針において説明があったが、市長は本市の文化・スポーツの振興について、どのように考えているか。
回答	市民一人一人が心豊かに、健康で生き生きと暮らせる地域社会の実現に不可欠なものとして認識をしており、スポーツや文化芸術などを通じて、世代や分野を超えた交流のほか、地域の活性化、スマイルエイジングの取組にも寄与するものと考えている。